

早坂裕実子統括施設長(社会福祉法人まつど育成会)に聞く グループホーム「オハナ」とこれから



社会福祉法人まつど育成会 統括施設長
早坂裕実子さん

松戸市立病院近くにできるグループホームは、社会福祉法人まつど育成会が運営すると聞きました。今日はその統括施設長を務める早坂裕実子さんを直撃してお話をうかがいました。芯が通って、たくましくて、実は優しくて細（つむぎ）のお着物がよく似合う素敵な方でした。(森口)

1. 施設の名前は？「オハナ」

森口 ずいぶん大きな建物になりますね。現在建築中の施設のお名前から聞かせてください。

早坂 「オハナ」といいます。ハワイ語で「大家族」というような意味です。みんなで暮らすグループホームですから、似つかわしいと思いました。

森口 親族も親しい人も助け合う人々をひとまとめにして「オハナ」というようですね。分かち合いを大切に作るハワイの古くからの精神を象徴しています。すてきな名前ですね。

2. なぜ新しい施設を？

森口 新しい施設を求められたわけは？

早坂 これまで利用していた建物が古くなったためです。大家さんは私たちにとって最初のグループホームに理解を示された大変良い方でしたが、天井も低くてお風呂も小さくて利用者の方たちが大変気の毒な状態でした。そのために新しい建物を探しました。

森口 既存の建物で良い物件もあったのではないのでしょうか。

早坂 現に一戸建てのお宅をを譲り受けて使用させていただいている施設もあります。しかし、借り受ける際に、改造したいといえど大家さんは「返却の際に原状復帰していただくのであれば」と必ずおっしゃるので、借りることを躊躇してしまいます。今回は、たまたま私たちの意見も聞いて新しい建物を建ててくださる地主さんがいらしたのでお借りすることにいたしました。

3. 聞いてもらったご意見とは？

森口 地主さん側がまつど育成会の早坂さんの意見を聞いてくれたとのことですが、どんな注文をされたのですか？

早坂 利用者の皆さんにとって、ここは暮らしを作ってゆく住まいです。一時しのぎの仮住まいではありません。多くの運営者の皆さんは一人あたり6畳間でよいとお考えですが、ひとりの人が暮らすのに6畳間で良いとは私にはどうも思えません。例えば、お風呂やトイレがワンフロアに1つずつで良いでしょうか。洗面台の問題や収納スペースの問題、ドアの把手一つをとってもここで「暮らす」利用者の皆さんのことを第一に心を配らなければいけないと思います。

森口 地主さんはその要望に応じてくれたのでしょうか。

早坂 はい、今回は理解ある地主さんに巡り合えたと思います。予算の関係ですべてを聞いていただけたわけではありませんが、基本的な部分は受け入れていただけたと思います。

森口 お考えの基本は、グループホームが「通過施設」ではないということですね。

早坂 はい。利用者の皆さんにとっては事実上「ついの住まい」になるものです。それにふさわしいお家を用意してあげたいと思います。

4. 早坂さんの熱意の源は？

森口 早坂さんは、まつど育成会の前にはどんなお仕事をされているのでしょうか？

早坂 以前には神奈川県にある「弘済学園」に長く勤めていました。そこは知的障害などの障害があるお子様たちの施設でした。そこでの恩師である中村健二氏に教えられた「思い」が私の思いの源です。そしてもう一人の恩師である飯田雅子氏に勧められてこちらに来たのです。

森口 なるほど、深い経験と長い歴史があるのですね。

5. まつど育成会の今後は？

森口 まつど育成会はこれからどのように進むのでしょうか？

早坂 利用者の皆さんもやがて就労年齢を過ぎて高齢者になります。人生のあらゆるステージで皆さんの頼りになるようにしたいと思います。まつど育成会も努力しますが、すべてのことがまつど育成会だけでできるとは思いませんので、それぞれの部分を担う多様な福祉団体の皆さんと協力して対応してゆけることを願っています。

6. 建築会社についての感想は？

森口 最後になりましたが、この建物を建築した京葉エステート株式会社についてのご感想をお聞かせいただけますか。

早坂 会社自体にチャレンジ精神があふれていて、福祉関連事業に積極的に努力されていること、設計士が若くて柔軟性があり、私たちの要望をよく取り入れてくれたことに感謝しています。

インタビュー 森口晶（もりぐち・あきら）

株式会社サイエンスハウス 社長室室長

マイコンブーム時代の雑誌「RAM」の常連執筆者の一人。

エー・アイ・ソフト、広済堂出版、インタープレス、サイエンスハウス、誠文堂新光社などからの出版多数。



建設中の知的障害者グループホーム「オハナ」